

2012 年 3 月 8 日

スポーツ復興支援活動レポート

「家庭でできる運動遊び体験会」「昼休み時間を利用した運動遊びのサポート」「教師のための運動遊び勉強会」

東北学院大学 鈴木宏哉

支援活動補助金による活動の趣旨は、宮城県女川町小・中学校における体育的活動の活性化や運動量確保のための環境作りであった。活動は3つあった。ひとつは「家庭でできる運動遊び体験会」であった。この体験会では、子どもたち自身に参加してもらい、運動量を少しでも増やしてもらうことと、保護者に遊び方を知ってもらい、家庭で実践してもらうことに主眼を置いた。そして次の活動は「昼休み時間を利用した運動遊びのサポート」であり、もうひとつは「教師のための運動遊び勉強会」であった。最初の活動は学校外での運動量確保の活動であったが、あとの2つの活動は学校内での運動量確保の活動であった。具体的な活動については下記の通りであった。

「家庭でできる運動遊び体験会」

宮城県牡鹿郡女川町の総合体育館において平成23年12月18日(日)13時から「家庭でできる運動遊び体験会」を実施した。実施の告知は体験会の約2週間前に町内の全小学校(3校)のクラス担任を通じて保護者全員(約420名)にチラシを配布したほか、町内の全保育所(2箇所)と総合体育館にポスターを掲示した(チラシ等添付資料参照)。また、15日に女川第一小学校の保護者参観日に鈴木(報告者)が「運動が必要なワケ」と題して保護者及び教員向けの講話を行った際に、体験会の告知を行った。

当日は見学者を除き24名(3年生～6年生とその保護者)の参加があった。体験会の講師には、足立区立五反野小学校の武田千恵子教諭と同小学校の富岡将人教諭を招聘した。なお、両氏は東京都小学校体育研究会のメンバーで、全国の教員研修会や都内の学校体育部会のインストラクターを務めている。体験会は、女川町教育委員会青山氏のあいさつの後、講師2人による実技講習を行った。内容は体ほぐし運動、体づくり運動、ボール運動などであり(一部添付写真参照)、約1時間半にわたって行われた。

この体験会の狙いは、体験会当日に子どもたちに体を動かしてもらうことだけではなく、遊び方を知ってもらうことであった。体験会には現職の小学校教諭や保護者の参加があり、子どもたちと普段から多くの時間をともにしている大人が運動遊びのノウハウを学んだことで波及効果が期待される。

当初、この企画は体育を専門としない小学校の教師向けの実技講習会を想定していた。しかし、被災地域にある学校特有の「支援され疲れ」が蔓延しており、教育委員会、教務主任、教頭と意見交換を重ねた結果、教師向けの講習会の年内実施は時期尚早と判断し、今回実施したような子どもと保護者向けの企画に変更した経緯があった。

家庭でできる運動遊び体験会

こどもから大人まで運動遊びが楽しめる！学べる！

日時 12月18日(日)
時間 13:00~15:00
場所 女川町総合体育館
(事前申込不要)

プログラム(予定)

13:00~13:10

開会:主催者あいさつ

13:10~14:40

運動遊びの体験

14:40~15:00

運動に関する悩み相談Q&A



対象 親子はもちろん、お子様だけでも、
親御さんだけでも楽しむことができます。
見学だけでも構いません。

講師陣:

「学校の先生の先生」が来ます！
武田千恵子教諭（足立区立五反野
小学校）ほか

東京都の現職小学校教諭で、普
段から、小学校の先生方に講習会
等で体育の授業のことを指導して
いる先生方が来ます。気さくな先
生ばかりで、盛り上げ上手です
(*^_^*)



後援:女川町教育委員会
協賛:

東日本大震災復興支援

スポーツを届けよう!



社団法人 全国大学体育連合

このイベントは、社団法人全国大学体育
連合の支援補助金を受けて実施されます。

「おながわっ子元気アッププロジェクト」って何?

体育や健康の専門家が、女川町教育委員会と各学校
の先生方のご協力のもと、運動で「女川町の子ども
たちを元気にする」ことを目指すプロジェクトです。
その中で、放課後や週末の運動機会を提供する活動
が「アクティブクラブ」です。

お問い合わせ・ご連絡先:東北学院大学鈴木宏哉研究室
Tel 022-773-3394 Mail koya@izcc.tohoku-gakuin.ac.jp

おながわっ子

元気アップ

プロジェクト通信

第3号(小学校版) 2011年12月2日
発行 東北学院大学教養学部人間科学科
鈴木研究室
住所 仙台市東区天神沢2-1-1
電話 022-773-3394

ご意見・ご感想をお聞かせください
koya@izcc.tohoku-gakuin.ac.jp



プロジェクト通信の第3号は週末の運動遊びイベントのご案内です。

日時：12月18日(日) 13時～15時 場所：女川町総合体育館

アクティブクラブ第2弾企画：家庭でできる運動遊び体験会

おながわっ子元気アッププロジェクトでは、放課後や週末に運動できる環境を提供するために、誰でも参加できる「アクティブクラブ」という活動を展開しています。11月28日には、その第1弾として「ドッチビー体験会」を行いました。第2弾は「家庭でできる運動遊び体験会」です。

子どもから大人まで運動遊びが楽しめる！学べる！体験会！

運動する環境が制限されている中で、冬を迎えますと、さらにおながわっ子の運動遊びの機会が減少すると思います。

室内などの狭いスペースや家庭でできて、親子でも楽しめる運動遊びを実際に体験してもらいたいと思います。

スポーツ少年団などのクラブに加入していない子ども達や運動の苦手な子を想定していますが、普段から活発に運動している子どもでも楽しめる内容です。

当日は運動に関する悩み相談の時間も設けたいと思います。

講師紹介：「学校の先生の先生」が来ます！

「先生の先生」というのは、東京都の現職小学校教諭で、普段から、小学校の先生方に講習会等で体育の授業のことを指導している先生方が来ます。とてもひょうきんで、気さくな先生方ばかりです(*^_^*)

(当日の予定)

1. 主催者あいさつ
2. 運動遊びの体験(1時間半くらい)
3. 運動に関する悩み相談Q&A

どうして、こんなイベントをするの？

小学4年生から6年生の皆様にはプロジェクト通信の第1号と第2号でご紹介しましたが、元気アッププロジェクトの調査結果から、普段ほとんど運動しない(1週間に60分未満)おながわっ子が男子で13.8%、女子で62.5%いることが分かりました。そして、「疲れやすく、そわそわ」傾向の子どもは、1週間に運動やスポーツを60分間未満しか行わない子どもに多いことが分かりました。

要するに、ちょっとだけでも体を動かすことで心の元気は取り戻せるということです。

冬場はどうしても活動量が減ります。スポーツ少年団などのクラブに加入している子であれば心配いりませんが、「運動が得意でない子」、「運動場所がなかったり、一緒に遊ぶ友達が近くにいない子」のこころとからだの元気が心配です。このイベントが問題解決の一助となれば幸いです。

親子はもちろん、お子様だけでも、親御さんだけでも楽しむことができます。見学だけでも構いません。

編集後記

イベントに来て頂きたい方は「普段、家でゴロゴロしている子」と「そんなお子さんをお持ちの親御さん」です。もちろん活発な子でも楽しめるといいます。講師の先生方は、「参加者が少なくても女川に行きます！」と言って来ています。大変ありがたいです。楽しい会になれば良いなあ(東北学院大学 鈴木)

私たちはおながわっ子の
元気復興を本気で応援します！



「昼休み時間を利用した運動遊びのサポート」

宮城県牡鹿郡女川町の女川第二小学校体育館において平成 24 年 2 月 29 日と 3 月 1 日の両日、13 時 05 分から 13 時 35 分のお昼休み時間に女川第一小学校の 2 年生と女川第二小学校の低学年を対象に運動遊びを実施した。29 日は約 40 名、3 月 1 日は約 20 名の児童が集まった。この活動のねらいは、学校における通常の時間割を変更することなく、如何にして教師の負担をかけずに児童の運動量を確保するかということにあった。運動遊びは報告者と大学生ボランティア数名により行った。内容はドッジビー、しっぽ取り鬼、遊具を使った競争などであった。最初の 5 分程度は自由遊びを行い、残りの 20 分程度の時間で報告者が遊び方を示しながら大学生ボランティアと一緒に運動を行った。運動の後半には児童の多くが半袖姿になるくらいほどの運動量は確保できた。

「家庭できる運動遊び体験会」を実施した 12 月末の時期には、学校現場は日常を取り戻すことを最優先に日々取り組んでいたため、学校内へのアプローチを躊躇していた。しかし少しずつではあるが先生方の業務も安定して来た時期がこの時期であった。そして、この時期を過ぎると今度は震災関連のイベントや卒業式の準備と年度末の忙しい時期になってしまうことから、先生方と調整した結果この時期を選んだという経緯があった。

なお、この取り組みは 3 月 8 日、3 月 14 日にも実施することが決まっており、学校サイドが継続して外部人材を積極的に活用しようという気持ちのゆとりが芽生えはじめてきたといえる。実際の所、先生方の実質的な負担がないこのようなイベントであっても、教頭や教務主任は業間や昼休み時間に通常業務にないイベントが入ることで教育活動に使える時間（業間や昼休み時間でさえも学校行事等に活用されている）が制限されることを嫌う傾向にあった。ただし、学年によっては何もない日がある。そのため、学年別に優先される行事のない日を 1, 2 週間単位で調整して実施日を決定した。こういった工夫が学校サイドに負担感を感じさせずにイベントを行うコツではないかと思う。

（運動遊びの風景）







「教師のための運動遊び勉強会」

宮城県石巻市の遊楽館アリーナにおいて平成 24 年 3 月 4 日(日)9 時 45 分から「明日の授業で使える教師のための運動遊び勉強会」を実施した。実施の告知は勉強会の約 2 週間前に宮城県東部教育事務所の所長に依頼し、管内（東松島市、石巻市、女川町）すべての小中学校にチラシを配布した。また女川町内の全小中学校に対しては報告書が直接チラシを手渡した（チラシ等添付資料参照）。

当日は約 30 名の参加があった。参加者の半数が小学校教諭と中学校保体教諭、半数が教員や指導者志望の学生であった。教育委員会の指導主事や小学生も数名参加していた。勉強会の講師は、「家庭でできる運動遊び体験会」の講師と同様であった。勉強会は、講師 2 人による実技講習が約 1 時間半、質疑応答を 20 分程度行った。実技講習の内容は現職教諭向けということもあり、学習指導要領の領域を意識した内容となった。具体的には、体づくり運動、走・跳の運動、リズムダンスであり、主に中・高学年の授業に活用できる内容であった（一部添付写真参照）。

この勉強会の狙いは、教師に子どもたちを楽しく運動させるノウハウを身に付けてもらうことであった。学校での体育的活動全般を担うのは教師であること、子どもたちは 1 日の大半を学校で過ごしてい

ること、そして学校ではすべての児童が平等に運動する機会を与えられる。そのため、学校での取組が子どもたちの運動量を増加させる重要な役割を担っている。しかし、前述した通り、肝心の先生方が日々の業務に忙殺されていたのが、昨年であった。現在もなお仮住まいの校舎で行っており、それに伴う種々の苦労は未だ残っているが、ようやくこのようなイベントに参加できる雰囲気が出てきたため、このタイミングでの実施とした。実技講習のあとの質疑応答では若手教師からマット運動に関する質問があったが、講師は授業例や教え方のコツを実演しながら説明するなどしていた。仮設住宅での生活やバス通学による運動量の低下が続き、体力の低下を心配される学校の先生方にとって、とても有益な勉強会であったといえる。





明日の授業で使える 教師のための運動遊び勉強会

子どもたちが動きたくなるコツを伝授します！

日時 3月4日(日) こもれびの降る丘
時間 9:45~11:45 **遊楽館**
場所 石巻市遊楽館 のりまきビル
(石巻市北村字前山15番地1)
プログラム

9:45~9:50

主催者あいさつ・講師紹介

9:50~11:15

運動遊びの体験

(子どもたちと先生方が模擬授業に参加)

11:15~11:45

体育授業に関する悩み相談Q&A

講師陣：

「学校の先生の先生」が来ます！
武田千恵子教諭（足立区立五反野
小学校）ほか

東京都の現職小学校教諭で、普
段から、小中学校の先生方に講習
会等で体育の授業のことを指導し
ている先生方が来ます。気さくな
先生ばかりで、盛り上げ上手です
(*^_^*)

企画趣旨

運動の得意な子と苦手な子の体
力格差や運動の嫌いな児童をなく
すために、学校体育は重要な役割
を担っています。ちょっとしたコ
ツが子どもたちをやる気にさせま
す。運動に関する教師の悩みを解
消することがこの企画の趣旨です。
明日実践したくなる授業の一コマ
を紹介します。

対象 石巻市、東松島市、女川町の小中
学校教諭を中心に、子どもたちを
元気にすることに情熱を燃やす方
ならどなたでも。



協賛：

東日本大震災復興支援

スポーツを届けよう！



社団法人 全国大学体育連合

このイベントは、社団法人全国大学体育
連合の支援補助金を受けて実施されます。

「アクティブクラブ」って何？

女川教育の町づくり実行委員会の中にある、運動で
「女川町の子どもたちを元気にする」ことを目指す
部門です。「子どもを支える教師」を支援すること
もアクティブクラブの活動です。

お問い合わせ・ご連絡先：東北学院大学鈴木宏哉研究室
Tel. 022-773-3394 Mail koya@izcc.tohoku-gakuin.ac.jp

さいごに

今もなお、有名人を招いた被災地での支援イベントが続いています。そういったイベントには多くの町民が集まります。しかし、町内の小学校校長の一人は「奇をてらうイベントはもういない。継続的な取り組みをお願いしたい」と話しています。女川町では1月に「女川町教育の町づくり実行委員会」が設立され、地・徳・体の3領域の復興に取り組んでいます。「体」領域では、この支援補助金によって実現したイベントをきっかけに、現地の人を雇用しながら、学校及び放課後の運動環境を整備する取組が始まろうとしています。大変感謝しております。一連の取組はツイッター（@onagawaAC）にて情報発信していますので、そちらもご覧ください。